

九州ブロック会議（平成26年7月24日～25日・大分県：別府杉乃井ホテル）

参加者は約150名。はじめに九州ブロックを代表して中村哲九州ブロック長、また開催県から田中由視大分県専修学校各種学校連合会会長があいさつを述べた。続いて、小林光俊全専各連会長があいさつを述べ、さらに来賓として大分県の広瀬勝貞知事（代理）が祝辞を述べた後、来賓及び九州各県会長を紹介。

総会では、田中大分県会長が議長に選出され、①平成25年度事業報告及び決算報告、②役員改選、③各県提出議題、④宣言文採択の各議案が上程され、全ての議案が全会一致で承認された。役員改選ではブロック長：中村福岡県会長（再選）、副会長：中島義和熊本県会長（再選）、江口敏文佐賀県会長（新任）が選任された。

引き続き中央情勢報告として、文部科学省専修学校教育振興室の榎木奨悟専修学校第二係長が配布資料をもとに、平成26年度専修学校関係予算及び事業の内容、専修学校生への経済的支援の在り方に関する検討会等について説明を行った。全専各連事務局からは活動状況報告が行われ、特に「専修学校生の教育費負担軽減に向けた就学支援措置の創設・拡充」にかかる要望について、各県協会等から知事等に陳情を行うことにより、地方自治体から国への要望としてつながっていくこと説明し、協力を求めた。

休憩後、研修会として『「職業実践専門課程」制度周知のための説明会』が開催された。

はじめに春田鳩鷹専修学校第一係長が、認定状況等の現況、「職業実践専門課程」の運営上さらに改善・充実を図るうえでの留意点、今後の道すじを中心に解説。

次に「職業実践専門課程」認定校からの事例発表があり、申請手続を行うまでの過程における重要なポイントや問題点について説明した。発表者は福岡県・麻生情報ビジネス専門学校の倉吉由紀子氏、大分県・明日香美容文化専門学校の首藤陽一氏。

最後に、春田係長からは「職業実践専門課程」の認定を受けることによるメリットとして、学校の「見える化」が進むことで社会に対するより大きなアピールとなるのではないかと、とのまとめがあった。

懇親会には岩屋毅衆議院議員及び赤池まさあき参議院議員が駆けつけ、赤池議員からは「専修学校・各種学校が今後とも発展するよう活動していく」、とのあいさつが行われた。

【大会宣言】

我が国の専修学校・各種学校は、未来の日本を担う人材を育成すべく、時代と社会のニーズに応える専門的な職業教育を実施しているところである。

日本の高等教育機関として大学を中心としたアカデミックラインとは別に職業教育を中心としたプロフェッショナルラインの強化による複線型教育の推進とともに専修学校・各種学校の果たす役割は、ますます重要な地位を占めるようになった。一方で我が国における少子化・18歳人口の激減・経済社会のグローバル化・情報化はいよいよ勢いを増しており、専修学校各種学校の形態そのものに関わる問題も生じている。従って、職業教育を担う中核的な教育機関としての専修・学校各種学校は経営の改善や、教育の質の向上に向けて更なる自己改革を図り、真に社会的責任を自覚しなければならない。

本日、この九州ブロック大会において、下記事項を行政当局並びに全国専修学校各種学校総連合会に対して強く要望するとともに、併せてそれぞれの九州ブロック会員校が課題の解決と社会的責任の遂行に向け努力することを宣言する。

記

1 国、県等の行政機関への要望

- (1) 職業実践的な教育の中に、職業教育の強化、高等教育における複線化、学校教育法第1条に規定される職業教育に関する新たな高等教育機関の早期実現を求める。
- (2) 専修学校における職業実践専門課程の充実・推進を求める。
- (3) 意欲と能力のある専修学校生が経済的困窮により修学を断念することなく、安心して学べるよう、授業料減免等経済的支援が早期充実されることを求める。

2 全国専修学校各種学校総連合会への要望

全専各連に地方の意見を反映させるために、全専各連役員、委員会委員等への九州ブロック内の人材登用を引き続き積極的に行うことを求める。

3 九州ブロック内の会員校の課題、社会的責任の遂行に向けて

- (1) 各校の学校評価、自己点検及び自己評価に真摯に取り組み、教育内容及び教職員の資質向上を図るとともに、より魅力ある職業教育を実施する。
- (2) 職業教育機関として、若年者雇用対策や生涯学習環境の提供などにより地域社会へ積極的に貢献する。
- (3) アジアに近接した九州ブロックの地理的特性を活かし、国際社会で活躍し、我国の将来に貢献する視点を持った人材の育成と先を見通した学校経営に心がける。